

# 安全データシート

## 【製品名】 「サーモプレグ R」

### 1. 化学品及び会社情報

【製品の名称】	サーモプレグ R
【一般名称】	無機ファイバー製品用表面硬化材
【製品の概要】	無機ファイバー製品の表面に塗布あるいは噴霧した後に乾燥・加熱することにより表面を硬化するのに適したコロイド状の製品。
【推薦用途】	無機ファイバー製品用表面硬化材
【使用上の制限】	カタログ、仕様書に記載の用途や目的以外には使用しないことを推奨する
【事業者情報】	
会社名	新日本サーマルセラミックス株式会社
所在地	大阪府堺市堺区戎島町 4-45-1 ポルタス・センタービル 12 階
電話番号	072-341-8515
FAX	072-341-8517
緊急連絡先	072-341-8515

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類：

物理化学的危険性	分類できないか区分に該当しない
健康に対する有害性	分類できないか区分に該当しない
環境に対する有害性	分類できないか区分に該当しない

#### GHSラベル要素：

絵表示又はシンボル	-
注意喚起語	-
有害性情報	-
その他の危険有害性	眼、皮膚などに触れたとき、一過性の機械的刺激を生じることがある。 粉じんを長期にわたり多量に吸入したとき、呼吸器への影響を生じるおそれがある。

#### 注意書き

[安全対策]	使用前に全ての安全説明書を入手し、読み、従うこと。 粉じん／ミスト／スプレーを吸入しないこと。 保護手袋／保護衣／保護眼鏡を着用すること。 この製品を使用するときに、飲食または喫煙をしないこと。 取扱い後は手をよく洗うこと。
[応急処置]	吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 皮膚に付着した場合：多量の水で洗浄する。 眼に入った場合：すぐに水で数分間洗うこと。すぐに救急の医療処置を受けること。 飲み込んだ場合：すぐに救急の医療処置を受けること。
[保管]	密閉して保管すること。 冷暗所に保管すること。（禁冷凍）
[廃棄]	内容物/容器は、地域の規則に従い適切な処分を行う。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物  
成分・含有率

成分	含有率 (%)	化審法 官報公示 整理番号	安衛法 表示通知 対象物 (注 1)	C A S 番号
アモルファスシリカ	30	-	-	7631-86-9
水	70	-	-	7732-18-5

(注 1) 令和 9 年 4 月 1 日施行対応

### 4. 応急措置

**吸入した場合** 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

**皮膚に付着した場合** 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
皮膚を流水、シャワーで洗うこと。

**目に入った場合** 痛みが残ったり、なにか症状のあるときは、医師の診察を受ける。  
異物感がなくなるまで、流水で洗浄する。眼をこすってはならない。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

**飲み込んだ場合** 口をすすぐこと。  
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

**適切な消火剤** 本製品は不燃性。周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。  
**使ってはならない消火剤** 情報なし

### 6. 漏出時の措置

**人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置** 作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、  
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。  
本関係者以外の立入りを禁止する。

**環境に対する注意事項** 環境中に放出してはならない。

**封じ込め及び浄化の方法  
及び機材** 大量な漏洩物の除去や廃棄処理の場合は専門家の指示による。  
少量の残留物は土砂またはおがくず等に吸収させる。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

#### 技術的対策

本製品は弱アルカリ性なので、眼、皮膚等への接触を避けるため、適切な保護具を着用する。

#### 安全取扱い注意事項

容器を転倒させる、落下させる、衝撃を与える、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。

十分に換気し、粉じんおよび/または蒸気の濃度を最小限に抑える。

皮膚、眼、あるいは衣服との接触を避ける。

個人用保護具を着用する。

#### 接触回避

知見なし。

#### 衛生対策

本製品はウエット状なので、粉じんが飛散する危険性はないが、乾燥した本製品の取扱い時には粉じんが飛散する。

粉じんの飛散を防止することができない場合には、防じんマスクを着用する。

眼、皮膚等への接触を避けるため、適切な保護具を着用する。

作業衣などに付着した場合はよく取り除く。

取扱い後は、うがい及び手洗いを励行する。

### 保管

#### 安全な保管条件

冷暗所に保管すること。(禁冷凍)

#### 安全な容器包装材料

密閉式の破損しないものに入れる。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度

設定されていない

### 濃度基準値

設定されていない

### 許容濃度

設定されていない

### 設備対策

取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。

部屋の換気および全体的な換気を確保する。

設置することが困難な場合は下記に定める保護具を使用すること。

### 保護具

#### 防じんマスク

多くの種類の国家検定品が市販されているので、この中から作業に適したものを選定し、顔面への密着の状態には特に留意するとともに、フィルタの点検と交換などの保守管理を適切に行う。

#### 保護眼鏡

ゴーグル、サイドシール付き保護眼鏡など作業に適した保護具を使用する。

#### 手袋・作業衣

ゴム手袋、長袖の作業衣など作業に適したものを使用し、皮膚が露出しないようにする。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	無色透明
臭い	なし
融点・凝固点	>1200℃
沸点又は初留点又は沸点範囲	100℃
可燃性	不燃性
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	該当しない
引火点	該当しない
自然発火点	該当しない
分解温度	該当しない
pH	9~10.5
動粘性率	約 4mPa・s (25℃)
溶解度	該当しない
n-オクタノール/水分配係数	該当しない
蒸気圧	該当しない
密度及び/又は相対密度	1.2~1.3g/cm <sup>3</sup>
相対ガス濃度	該当しない
粒子特性	平均粒子径：約 10~20nm

## 10. 安定性及び反応性

反応性	通常の手扱い条件では安定である
化学的安定性	通常の手扱い条件では安定である
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件では危険有害反応を起こさない
避けるべき条件	「7. 取扱い及び保管上の注意」の項を参照
混触危険物質	知見なし
危険有害な分解生成物	900℃以上の加熱で、非晶質材料の結晶化が進行する。 〔16.その他の情報〕の項を参照

## 11. 有害性情報

製品（混合物）としての情報はなし

<アモルファスシリカの情報>

急性毒性	GHS 分類：（経口）区分に該当しない GHS 分類：（経皮）区分に該当しない GHS 分類：（吸入：ガス）区分に該当しない GHS 分類：（吸入：蒸気）区分に該当しない GHS 分類：（吸入：粉塵、ミスト）分類できない
皮膚腐食性/刺激性	GHS 分類：区分に該当しない
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	GHS 分類：分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性	GHS 分類：分類できない
生殖細胞変異原性	GHS 分類：分類できない
発がん性	GHS 分類：分類できない
生殖毒性	GHS 分類：分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	GHS 分類：区分に該当しない
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	GHS 分類：分類できない
誤えん有害性	GHS 分類：分類できない

---

## 1 2. 環境影響情報

生態毒性	本物質は水性生物に対して有害とは考慮されず、また、環境に対しても長期的な有害な影響を及ぼさない。
残留性・分解性	データなし
生態蓄積性	データなし
土壤中の移動性	データなし
オゾン層への有害性	データなし

---

## 1 3. 廃棄上の注意

化学品、汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
--	--

---

## 1 4. 輸送上の注意

国際規則	
国連番号	該当しない
国連品名	該当しない
国連危険有害クラス	該当しない
副次危険	該当しない
容器等級	該当しない
海洋汚染物質	該当しない
IMO によるばら積み輸送される物質	該当しない
国内規則	
海上規則情報	該当しない
航空規則情報	該当しない
陸上規則情報	該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	危険性はないが、輸送中の包装の破損などによって粉じんが飛散しないように注意する。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法：表示通知対象物、 リスクアセスメント対象物 (R9.4.1 施行)	適用なし
労働安全衛生法：がん原性物質	適用なし (「16.その他の情報」の項を参照)
労働安全衛生法：皮膚等障害化学物質等	適用なし
特定化学物質障害予防規則 (特化則)	適用なし
粉じん障害防止規則	適用 (注)
消防法	適用なし
危険物船舶運送及び貯蔵規則	適用なし
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管 理の改善の促進に関する法律 (PRTR 法)	適用なし
毒物及び劇物取締法	適用なし
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 (化審法)	適用なし
水質汚濁防止法	適用なし

(注)本製品は、「粉じん障害防止規則 (粉じん則)」において「鉱物」に該当し、次の作業を行う場合は粉じん則の適用を受ける。

- ① 鉱物 (本製品) を裁断し、彫り、または仕上げする場所における作業 (粉じん則別表 1 の 6 号)
- ② 鉱物 (本製品) を動力により破砕し、粉砕またはふるいわける場所における作業 (粉じん則別表 1 の 8 号)
- ③ 耐火物を用いてかま、炉等を築造し、若しくは修理し、または耐火物を用いた釜、炉等を解体し、若しくは破砕する作業 (粉じん則別表 1 の 19 号)

## 16. その他の情報

### [その他]

使用前の本製品中には、遊離けい酸は存在しないが、900℃以上で加熱したときには非晶質物質の結晶化が進行し、徐々にクリストバライトへ変化することが知られている。クリストバライトは遊離けい酸の一種であり、慢性的に吸入した場合には、じん肺を生じる作用があり、かつ合併症として肺がんを併発するリスクがあるため、取扱い作業は、粉じん障害防止規則、じん肺法で規制されているほか、2022年12月26日公布の告示により、「労働安全衛生規則第577条2第3項の規定に基づくがん原性物質」と指定され、作業記録の作成、30年保存等が義務付けられている。

加熱後の製品については、クリストバライト含有の可能性があること、繊維が飛散しやすくなることから、製品取扱い時は、呼吸用保護具の着用を推奨する。

なお、耐火物を用いた窯、炉等を解体し、若しくは破砕する作業は、粉じん障害防止規則の適用をうけるので、法にしたがった対応を実施すること。

### [参考文献]

日本高温断熱ウール工業会のウェブサイト  
製品評価技術機構 (NITE) のウェブサイト  
厚労省「職場のあんぜんサイト」のウェブサイト  
日本規格協会「GHS 対応ガイドライン」  
日本産業衛生学会「許容濃度の勧告」(2025)  
メーカーSDS  
その他

本 SDS は、JIS Z 7253:2025 に準拠して作成しています。

この情報は新しい知見に基づき、改訂されることがあります。

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の情報は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅したわけではありません。